



子どもによる情報発信

メディアキッズ通信



VOL.4

発行 特定非営利活動法人子ども文化コミュニティメディアキッズ 編集メディアキッズ 発行責任者 山口 恵
〒815-0032 福岡市南区塩原3-22-1-201NPO法人子ども文化コミュニティ TEL 092-552-1540 FAX 092-561-9840
E-mail info@kodomo-abc.org URL http://www.kodomo-abc.org



夏休み中の8月25日・26日福岡アクロスで地元福岡の伝統工芸「博多織」を知るワークショップ「**伝統への気づき**博多織未来予想図サマーフォーラム&親と子のワークショップ」が主催九州大学ユーザーサイエンス機構、21世紀博多織Japanブランド委員会、アクロス福岡、共催(株)岡野(千年工房)、新日本様式協議会、NPO法人子ども文化コミュニティで行われました。私たちは26日に参加し、もう少し博多織を知るために那珂川町にある博多織工房の職人大津孝行さんにインタビューしました。

Q、博多織はいつ頃日本に広まったの？

A、博多織は満田弥三右衛門が中国に渡り、技術を習得して広東織りを日本で織ったのが始まりと言われています。日本では700年前から広まり、中国では1500年前から始まりました。

Q、博多織の織り方は何種類？

A、7種類あります。博多の満田弥三右衛門がインドの仏具、どこをみて、柄を考案したそうです。織り上がる時間が違います。

Q、博多織の柄はだれがつくるの？

A、意匠(デザイン)の専門職)という職人さんがつくります。

博多献上の柄は仏教に深く関わっています。献上柄の縦線の意味は最初は親が子を守って後には子が親を守るといふ仏教の教えからきています。

Q、博多織で一番大きなものは何？

A、舞台の幕です。博多座の幕も博多織です。織機の幅が決まっているので、何枚もの反物を柄を合わせながら接いでいきます。1ヶ月ぐらいいはかります。

博多織は縦糸に3400本、横糸に3600本の横糸をあわせます(ちなみに西陣織は2200本)だからとても丈夫です。博多織は着物の帯が多いですが、ほどけたり切れたりしないので、おすもうさんのまわしにも博多織が使われています。しめるときゆっきゅっと音(衣擦れの音)がします。

博多織Q&A



Q、なぜこの仕事をえらんだの？

A、久留米で生まれ、幼い時から久留米絣を織る音を聞きながら育ったので、織物に興味があったからこの仕事(意匠)を選びました。

博多織師は昔は祇園町や呉服町に固まっていたのですが現在は大分や熊本、佐賀などにちらばっています。騒音問題や敷地確保の為もあります。ちなみに久留米絣の伝統工芸師は3人で、博多織師は44人です。

Q、仕事をしていてうれしい時はどんな時？

A、良い作品ができた時とか、品物が売れた時がうれしいです。年に2回技を競いあうコンクールがあります。選ばれた時(受賞した時)もうれしいです。

Q、仕事の時どんなことを意識してる？

A、わかい人などお客さんが喜ぶ色や柄を考えて仕事にとりくんでいます。26年この仕事を続けていますが、まだ自分の作品には角があると思っています。体調がよくないとい柄になりません。普段の生活でも、ものをみると何でこんな形や色なんだろうと無意識のうちに考えているらしく、作る時には思い浮かんでヒントになります。

Q、これからの博多織に期待することは？

A、着物をきる人が少ないからいろいろの人が着てくれるといいと思います。着物は姿勢がよくなります。背筋が伸びるので、消化にもよく、健康によいです。帯で締めると暴飲暴食を防いでダイエットになります。昔の日本にはお医者さんがあまりいなかったため、自分の健康は自分で守るしかありません。着物は日本人によく合っているとありますが、その余裕も大事だと思います。

博多織ワークショップに参加して

最初は、博多織なんて知らないけど、この1回だけで、博多織の事がよくよく解かっただけでも、いい体験をしたなあと思います。特にお相撲さんのまわしが、博多織だということを知って福岡の物をつかってくれたのだと思ってもうれしくなりました。博多織の体験もしました。とても難しいとおもっていただけ実際に博多織を織ってみて結構簡単で、うまく出来ました。作ったコースターを大切にしたいと思います。



(松浦 菜穂 小学6年生)



8月26日、今日は、博多織のワークショップと、特別に職人さんいろいろいると、インタビューさせて頂きました。まずは、インタビューから始めました。

最初にいっしょにインタビューする友達やスタッフと、打ち合わせをして、インタビューが始まりました。このインタビューをしたことで、博多織のことがよくわかっていくと知ることができました。例えば、博多織は日本では700年前から始まり、中国では1500年前からもう始まっていたことや、博多織でつくる一番大きなものは舞台の幕で、それをつくるのに1ヶ月ほどかかることなど、ほかにも色々知ることができました。

次に、ワークショップがありました。ワークショップでは、親子や、兄弟と一緒に着物の帯の柄をつくるという事で、クッキーなどを作る時につかう棒に紐や毛糸を巻いたり、スポンジをはったりしてそれに絵の具をつけ、帯と同じ長さの紙に転がし、絵を描いていきました。この絵は筆で描いたりしないから、つくっている本人でもできるまではどのような作品になっているかわかりません。でも、できあがるまで分からないのがまた、楽しかったです。色々な体験ができてとてもよかったです。

(柴藤 千夏 小学6年生)



26日プログラム
第1部 機織の音色と語りの朗読セッション
第2部 「親子DE独鈞(ごご)柄模様創りワークショップ」
第3部 博多織ファッションショー